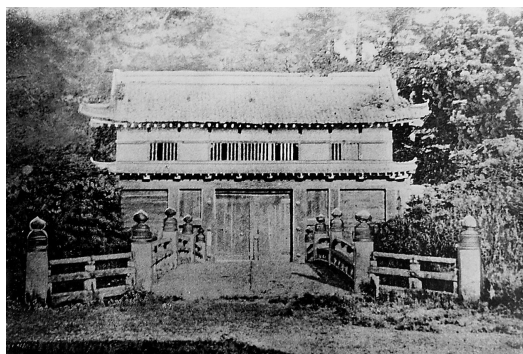


三の丸の歴史と魅力



明治維新150年記念大手門復元



水戸城跡の発掘調査で明らかになった
大手門両脇の瓦塼



至善堂（徳川慶喜が幼少期に学び、
大政奉還後に恭順謹慎）

徳川慶喜の弘道館での謹慎



明治元年(1868)
4月15日～7月19日

弘道館至善堂で
恭順の意を表し
て謹慎

水戸学とは

水戸学は、儒学と国学と神道の三者から影響を受けつつ、これらを融合して独自の思想体系を樹立したもの。

◇水戸学 → 前期水戸学・後期水戸学

前期水戸学とは

2代藩主徳川光圀がはじめた『大日本史』の編集事業の過程で生まれた学問。



後期水戸学の特徴

後期水戸学とは

9代藩主徳川斉昭、藤田幽谷・東湖、会沢正志斎らが唱えた独自の学風。

水戸学の特徴

- ①実践性…現実社会が直面する課題解決に役立つことを目指す。
 - ②先見性…将来を見据えた学問
 - ③国家的視野…水戸藩という枠を越えた学問
- 尊王攘夷**…天皇を尊び敬い人心をひとつにして外国から日本の独立を守る。
※幕末の志士たちに多大な影響を与えた。



地球儀や
弘道館記拓本の
前で学問に
励む竹内百太郎

かすみがうら市
歴史博物館提供

吉田松陰と水戸学



吉田松陰肖像
(雲山歴史館所蔵)

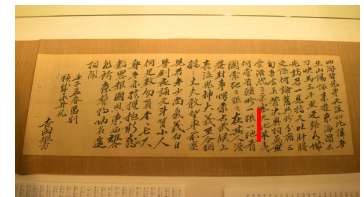
松陰は、嘉永3年(1850)の九州遊学中に会沢正志斎の『新論』を読み、感銘を受け、東北遊学の途中に嘉永4年12月19日から翌年1月20日まで水戸藩に滞在し、会沢ら水戸学の学者のもとを訪れて大きな影響を受けた。

松下村塾では、水戸学の書物が教科書として使用されていた。獄中での手記に「余深く水府の学(水戸学)に服す。謂へらく神州の道斯にありと」と記している。

吉田松陰と「一張一弛」

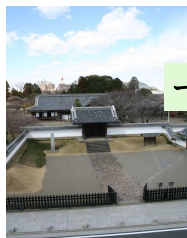


吉田松陰



松陰が水戸を発つ際に親友に贈った漢詩に「**一張一弛**」と記されている。

弘道館と音楽園



一対の施設

斉昭の構想



「**一張**」
文武の修練



「**一弛**」
リラックス

斉昭とブレーン

改革の推進力



藤田東湖



徳川斉昭



会沢正志斎







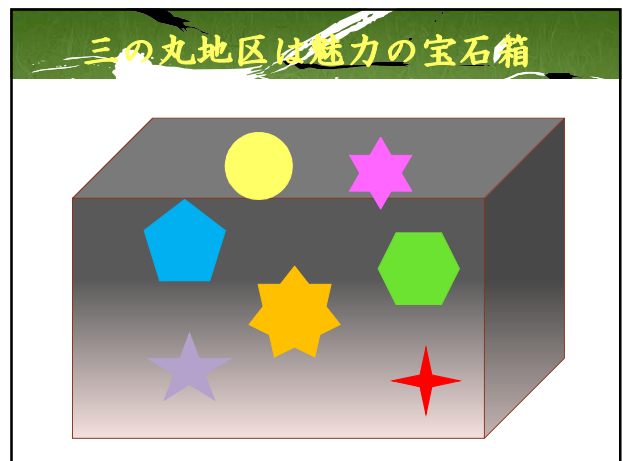
三の丸地区の魅力発信

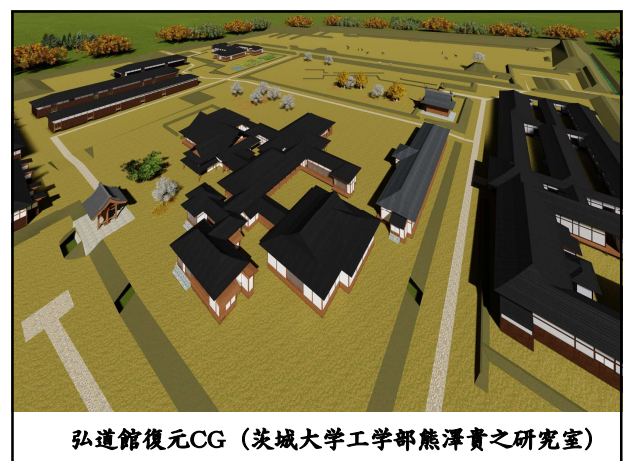
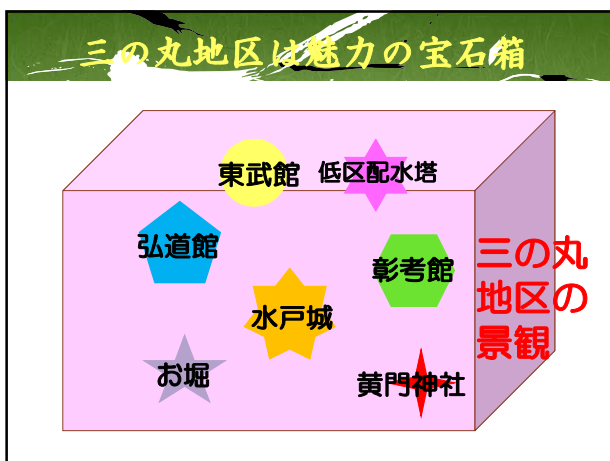
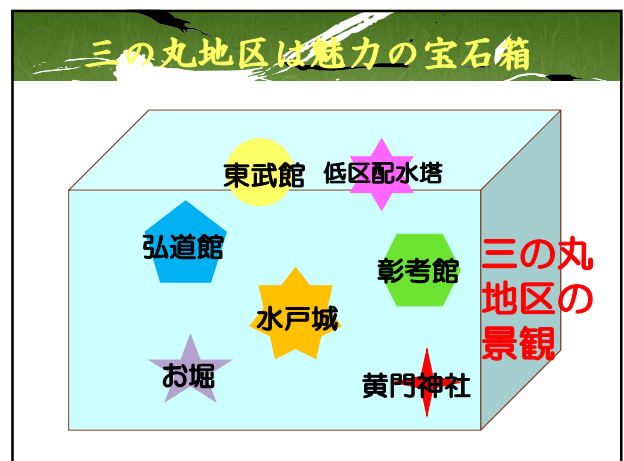
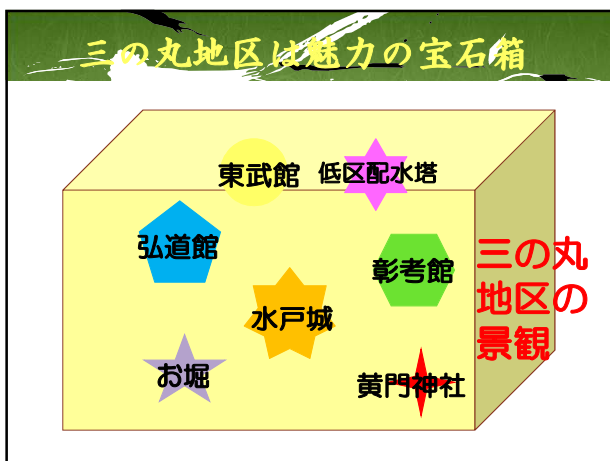
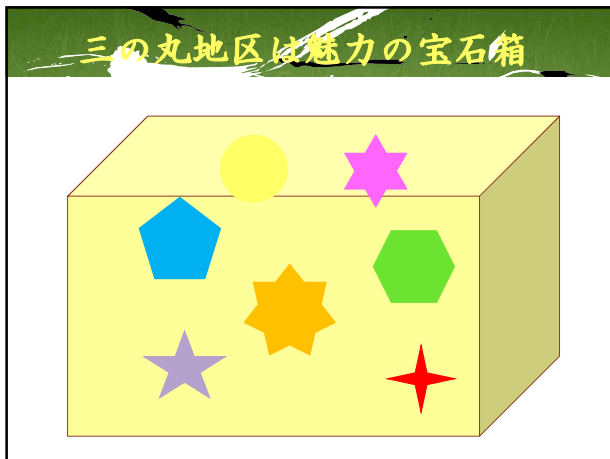
- *三の丸地区は、水戸城・弘道館を中心に歴史の舞台となった重要な地区
- *文化財や史跡が多くこの情緒豊かな地区

↓

歴史や伝統が息づくまちとして、点在する文化財や史跡をつなぎ、面（地区）としての魅力発信

三の丸地区の景観







弘道館復元CG（茨城大学工学部熊澤貴之研究室）



弘道館復元CG（茨城大学工学部熊澤貴之研究室）



弘道館復元CG（茨城大学工学部熊澤貴之研究室）

